

リサイクル 設備を増強

リサイクル業の平林金属（岡山市北区下中野）は、工場の設備を増強した。御津第二工場（同御津高津）には家電部品から金属を取り出す自動ライン、西大寺工場（同市東区西大寺新地）には非鉄金属くず（ミックスメタル）の選別装置を導入。中国が資源ごみの受け入れを制限し、国内での処理能力アップが求められていることに対応する。（伊東圭一）

平林金属 御津第二、西大寺工場

御津第二工場の自動ラインは、冷蔵庫やエアコンといった大型家電のコンプレッサー（圧縮機）などをシュレッダーで粉碎し、破片に混じる鉄や銅を磁力や風圧で分別する。3月に整備し、投資額は約2億6千万円。従来は大まかに切断した後、手作業で分別していたため処理が追いつかず、一部は自社の他拠点に回っていた。自動化により、処理量は1時間当たり2トと約2倍に向上。同工場内で一貫処理できるようになり、輸送コストの低減も図れる。

中国受け入れ制限

自動化で処理量向上



自動車や小型家電など識別する装置を各1台導入し、選別機を計5台に増やした。工場には3月までに、エックス線でアルミを高精度により分ける初導入の装置と、カメラや金属センサーを使って内容を

識別する装置を各1台導入し、選別機を計5台に増やした。工場には3月までに、エックス線でアルミを高精度により分ける初導入の装置と、カメラや金属センサーを使って内容を

にもつながらという。投資額は約2億1千万円。環境省によると、日本で処理しきれない廃家電などの主要な輸出先だった中国が、2018年から環境保護のため受け入れを停止。国内での再資源化が課題になっている。

平林金属は「国内で廃棄物が滞留し、同業他社から処理を依頼されるケースも増えている。リサイクル能力を高めて資源の有効活用

御津第二工場に新設した自動ライン。大型家電のコンプレッサーなどから鉄や銅を取り出せる

につなげたい」としている。同社は1960年設立。資本金9980万円。売上高126億2千万円（2019年12月期）。従業員約370人（パート含む）。